

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 山本 小奈実

〔題名〕 脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインの開発

〔要旨〕

1. 研究の目的

本研究の目的は、脳死下臓器提供した家族の思いとその家族に関わる看護師の看護実践を明らかにし、脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインを開発し、脳死下臓器提供における家族ケアの看護実践への示唆を得ることである。

2. 研究の方法と結果

【第1段階】

脳死下臓器提供の看護経験のある看護師20名のインタビュー結果から質問紙を作成し、「脳死下臓器提供における看護師の役割」について、ケアを実践した看護師154名に調査を行いガイドラインの要素となる役割を明らかにした。

【第2段階】

第1段階の結果とエキスパート12名による評価の結果を基に脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドライン（案）を作成し、7つのカテゴリと、それぞれの段階において、「目標」「情報収集」「患者ケア」「家族ケア」「多職種連携」という5つの観点から整理した。

【第3段階】

全国の脳死下臓器提供施設に勤務する看護師806名を対象に調査を行い、本役割ガイドラインの適切性を評価した。実践経験のある看護師は、ない看護師に比べて実践可能性が高かったが、重要度に差異はなかった。また重要度は、実践度よりも高かった。

【第4段階】

動画を用いた場面想定法により、脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインを、WEB上で家族ケアを体験しながら活用し、241名に質問紙調査し、その後20名のグループインタビューで評価した。複雑なケアプロセスを可視化し、各場面での看護師の実践的指針として機能しうるガイドラインである。

3. 今後の展開

今後は、臨床でのガイドラインの効果検証を行うと同時に、ガイドラインを活用した教育支援プログラムを構築しておりその評価を行う予定である。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1743 号	氏 名	山 本 小 奈 実
論文審査担当者	主査教授	齊田 菜穂子	
	副査教授	田中 愛子	
	副査教授	伊東 美佐江	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインの開発			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインの適正性と課題			
掲載雑誌名 山口医学 第 74 巻 第 3 号 P. ~ (2025 年 月 掲載 掲載予定)			
(論文審査の要旨)			
申請された学位論文は 4 段階の研究で構成され、脳死下臓器提供した家族の思いとその家族に関わる看護師の看護実践の調査を行ったうえで、脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインを開発したものであった。			
【研究 1】			
3 次救急医療の 9 施設で脳死下臓器提供の看護経験のある看護師 20 名を対象に、脳死下臓器提供における看護実践についてインタビューを実施し、36 項目を抽出した。この結果と国内外の文献を照合し、脳死下臓器提供時における看護師の役割を 51 項目とした。この 51 項目を用いて脳死下臓器提供における看護師の役割の質問紙を作成し、ケアを実践した看護師 154 名に調査を行った結果、すべての項目は重要と認識され、ガイドラインの要素となる役割が明らかになった。			
【研究 2】			
重症急性期の臨床看護実践のエキスパート 12 名が、研究 1 の結果を踏まえ脳死下臓器提供における看護師の役割の妥当性を焦点にグループディスカッションを行い、脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドライン(案)を作成した。脳死下臓器提供の看護師の役割は 7 つのカテゴリで、「目標」「情報収集」「患者ケア」「家族ケア」「他職種連携」の 5 つの観点から整理された。			
【研究 3】			
全国の脳死下臓器提供施設に勤務する看護師 806 名を対象に、脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドライン 91 項目を用いて、項目の適切性(重要度と実践可能性)を調査した。その結果、すべての項目で重要度が高く、脳死下臓器提供の経験のある看護師が、経験のない看護師に比べ役割の実践可能性が高く、本ガイドラインでの看護師の役割は適切であることを明らかにした。			
【研究 4】			
脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインを臨床で活用できるか、動画による場面想定法を用いて WEB 上で脳死下臓器提供の患者家族ケアを体験しながらガイドラインを活用し、241 名に質問紙調査した。その後 20 名のグループインタビューにより評価した。脳死下臓器提供における複雑なケアプロセスを可視化し、各場面で看護師が果たすべき役割の実践的指針として機能しうるガイドラインであった。			
本研究は、Minds の診療ガイドライン作成マニュアル 2020ver. 3.0 を参考に作成された脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインは、作成プロセスに沿って研究を進めていたことや、本邦で初めて脳死下臓器提供における看護師の役割ガイドラインを作成したことは評価すべきである。今後に予定されている臨床でのガイドラインの効果検証やガイドラインを活用した教育支援プログラムを構築によって、社会への多大な貢献が期待できる。以上から、審査委員会は申請された学位論文が博士(保健学)を授与するにふさわしいと認め、合格とする。			

以上